

サークル：ちらりずむ

R18

バトルに負けたトライ的な彼女たち

修行目的で参加した
あるガンプラバトルの野良試合。



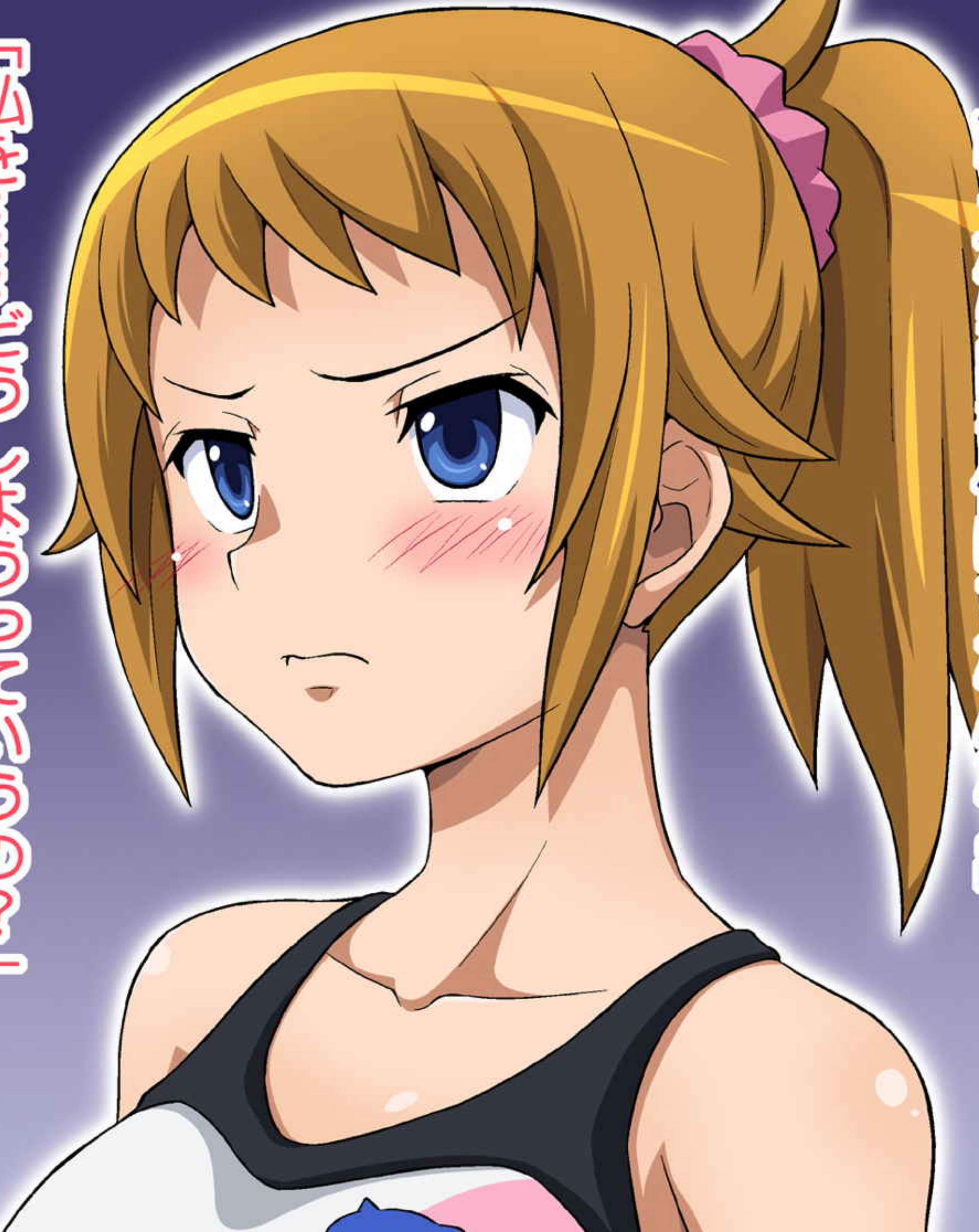
バトルに敗北したフミナは、
罨に嵌められて、
敗北のペナルティとして対戦相手に
服従することになってしまった。

「いやあ、フミナちゃん可愛いわねえ…
前々から目を付けてたんだよ」

「私を……どうして……？」

「負けたフミナちゃんには
俺達の奴隷になってもいいから……？」

「へっ……あなた達の思い通りになんて
させないからっ……」



「そんなに邪険にしているのかなあ?」

ビクッ

「な…何を考えてるの?」

「どうれを見てもまだ強敵どころか危ないかな?」

「え…う…嘘…」



アミナの目の前にいたのは、
全裸に剥かれ、枷で繋がれ、
ピストンバイブで責められる、
カミキ・ミライの姿だった。

そのクリトリスは、
異常なほどに肥大し、
ピアスに繋がれ引き延ばされている。

同じく乳首にも施されたピアスが、
痙攣に合わせて淫らに揺れていた。

「ミラインさんー!? なんてこんな……」

「一週間前に君と同じ様にバトルで負けてね」

ガチャ

「あら、凄いだろっ!?」

このクリトリス……」

がく

「んんん……」

がく

ガチャ



「凄いのはクリだけじゃないんだよあ……?」

ぐち

「FUCK YOU MAN BASTARD」

「かき回してめげなうな……」

ビクッ

「(……)」「(……)」「(……)」

「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」「(……)」



ビーン

ドクドク

ガ

「ほーら、
スイッチオーン」

ドクドク
ドクドク

ガ

ガ

「おっ……」

ビーン

ガ
ガ

ビーン

ガ



「おおっ……！」

「(私、死ぬっ……) 死んじゃうっ……！」

「おぶっ……！」

「おぶっ……！」

「あ……あんな激しく…… 壊れちゃうっ……！」

ガク
ガク

ガク

ドヤッ……ドヤッ

ガク
ガク
ガク

ガク

「あー、気絶しちやっただか…
クワリちよつと切れちやっただかな？」

ドロッ

ギクッ

ビクッ
ビクッ

ビクッ

「あ…」

「あ…あ…あ…」

「おぼっ…」

「まだまだ調教が
必要だなあ…こいつも」

ビクッ

続いて通された部屋には、
同じくフミナの見覚えのある
少女が拘束され、
過激な調教を受けていた。

ミライと同じく
クリトリスは肥大し、
天井から
吊り上げられている。

小陰唇には4つのピアス。
そして秘部からは
子宮口がはみ出していた。



「シ…シアさんまで……」

「なんだ知り合い
だったの?」

ギリ

ビクッ

ズッ

ビクッ

ビクッ

「……も……も……
許し……」

「ノー、シアさん

「……の時間だよー」



「ギャアアアアッ!」

「ほーね、

キレインで

あざなのおお。」

ジヨリ
アアア

ジヨリ

ギョイイ

ビクン

ビクン

ビクン

ギョリ

ジヨリ

ギョイイ

「あざなのおお!」

「暴れるとウツシちぎねちぎねしりら。」

「ギョイイアアアアッ!」



「おはりの……から歳しておもしろいかな？」

「あ……おづり……」

「気絶かな？」

「クリキ切ねな？」

ギリ
ギリ

ビクッ

チヨロロ

「あ……ほお……」

ビクッ

ビクッ

ゴポッ

「もあ……許し……」

「助け……兄さん……」

「セカイ……」

「また汚れちゃったなあ」

「一向にブラッシング」

「終わらないよ？」

「な…なんて酷い事……
こんなの許されるわけが……」

「他人事じゃないんだよ？
次はフミナちゃんの番なんだから」

「や、嫌！こんなの聞いてないっ」

「さー、まずは処女を頂こうかなー」

「だ…誰か助けてっ！」

「ユウ君っ！セカイ君っ！」





スパッツとパンツをはぎ取られ、両足を大きく広げた屈辱的な格好で拘束されるフミナ。

その秘裂に媚薬を塗りこまれ、恥辱と恐怖におののく少女の恥部からは、しっとり愛液が滲み出していた。

ビクッ

「いい格好だねえ
フミナちゃん……」

「ああ…嫌…」

グッ

グッ

「カガ…
入らない…」

「それにしてもいい体
してるな」

グッ

「どうでもじゃないが」

生には見えないよ」

トロッ

「やだ、見ないでよあつ…」

「そーら、膣内出し＝発目だ」

「あがッ!?!」

「熱ッ……!」

ビクン

「はは、中に出されて
イっっちゃったのか?
フミナちゃんは
淫乱だなあw」

グ

マッ

ビク

ビクニ

「ごんなの嘘よ……ごんな……ごんな」



調教二日目。フミナの陰核は媚薬の投与で親指大にまで肥大していた。たつた三日の調教ですでに快樂漬けと言っている感度である。

マンぐり返しの体勢で床に固定され、股間をさらけ出したフミナの身体を、男たちが容赦なく蹂躪する。

「ドライっ……も、もう許してくださーい……」

「ふふ、だいぶ従順になっただなこいつも」

「ビクッ」

「ビクッ」

「ビクッ」

「がく」

「ビクッ」

「がく」

「うっ」

「ひく」

「クリも大きくなっただなあ」

「ビクッ」

「今日も種付けしてあげるよ」

「さ、これ以上されたら私っ……壊れちゃうよっ……」

「あッがああああ・あ・ああッ!!」

「あらあら、じつから締めろよ」

「あッ...」

「許しっ...」

「薬が足りねえのかな？」

「だ、駄目っ! 薬はもう嫌ああッ!」

ビクッ

ビクッ

ブク

ブク

ズッ

ズッ

ズッ



数時間後、媚薬注射とレイプで
ボロボロになつたうづみナの姿が、
そこにはあつた。

クリトリスと乳首には真新しいピアス。
媚薬の大量摂取で、ピアッシングの度に
うづみナは激しく絶頂したのだつた。



僅か一週間で、精神崩壊の瀬戸際まで
追い詰められてしまったフミナ。

既にその瞳に力はなく、
かつてのはつらつとした
元気少女の面影は、
ほとんど残っていない。

しかし男たちは
調教の手を全く緩めず、
拘束したフミナの股間を
ピストンバイブで責め立てる。



「ああ……」

ガク

「なんか反応鈍くなつて
きちちゃったなあ」

ドクッ

「それ……らめ……」

ガク

「そろそろ壊しちゃつても
いいんじゃないか？
十分堪能したし」

ひくっ

ひく

「あーし……フミナちゃん、
覚悟してよー」

「もお許して……」

「わらひ……死んじやう……」

ズッ

「んほおおおおお・お・おツツ！」

がく

「まるで噴水だなw」

ビクーン

がく

ビクーン

「ほーら電マでクニを責めた」

「遠慮なく

イキ狂え！」

がく

がく

がく

がく

がく

がく

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

「おっほおおおおおツツ……！」



激しい調教の末、フミナの心は一ヶ月もたず完全に破壊されてしまった。その後も彼女は男たちの性処理玩具にされていた。

今彼女の腹は大きく膨れ上がっている。凌辱の末に誰とも知れない子を孕んだのだ。だが、子宮口のはみ出た少女の身体が出産に耐えられるのかどうか……。



